

# 虹の橋

作者不詳 訳 ふくふくやま

<http://fukufukuyama.com/>

天国の少し手前に、「虹の橋」と呼ばれている場所があります。

この世界で生前、誰かと寄り添い、暮らしていた動物たちは、  
その命の灯が消えたとき、「虹の橋」へ行くのです。

そこには、草原や丘が広がっていて、動物たちはそこで駆けまわり、  
ともにじゃれあって、楽しく遊んでいます。

おなかいっぱいのごはんと、きれいなお水、そして優しい太陽の日差しに溢れていて、  
みんながそのあたたかな場所で、のんびりと暮らしています。

病気にかかっていた子も、年老いた子も、みんな元気を取り戻し、  
傷の痛みを苦しんでいた子もすっかり健康なからだを取り戻し、  
昔のように、そしてまるで夢のように、そこでは過ごしているのです。

動物たちは幸せに暮らしているのですが、  
たったひとつだけ、心を満たしていないことがあります。  
それは、かつて共に過ごし、愛し合い、寄り添っていた人が、  
ここにいないことが、恋しくて、寂しいのです。

動物たちが一緒に遊んで、駆けまわっていたある日、  
ある子がふっと立ち止まり、遠くを見つめていました。  
その子の目は、次第にキラキラと輝きだし、よろこびで震えだします。  
突然、その子は仲間から離れ、草原を飛ぶように走っていきます。  
速く、速く、それはまるで風のようなのです。

その子の視線の先にいたのは、共に過ごし、愛し合い、寄り添っていたあなたでした。

その子とあなたは、虹の橋のふもとで再び出会います。  
あなたは、愛するわが子を抱きしめ、愛情いっぱいにふれあい、二度と離れることはありません。

幸せにあふれたキスがあなたの顔にふりそそぎ、  
もう一度、あなたは愛するわが子を抱きしめるのです。  
そして、わが子の顔をのぞきこみ、見つめあっては、語りかけます。

「きみと別れてからの長い長い人生を、私は一生懸命生きてきたよ。  
その中で、きみを忘れたことは一度たりともなかったよ。やっと会えたね。」

そしてあなたたちは寄り添いあって、共に天国へ続く虹の橋を渡っていくのです。